

東敦子没10周年記念ガラコンサート プリマドンナ 東敦子さんを偲んで

1967年ベルリンドイツオペラでデビュー、'71年には日本人としてはじめてウーン国立歌劇場で「蝶々夫人」に出演し世界に大きく羽ばたいた。なかでもオペラ「蝶々夫人」は、世界20数カ国で500回以上出演し、偉大なプリマドンナとして没10年の今でもその名声は光り輝いています。



撮影：稲越功一

テノール／佐野成宏



©TAIKAN USUI

ソプラノ／大岩千穂



バリトン／稀垣俊也



ピアノ／佐藤正浩

Program

- ドニゼッティ作曲 人知れぬ涙
オペラ「愛の媚薬」より
- ヴェルディ作曲 この穏やかな夜に
オペラ「ルイーザ・ミラー」より
- ヴェルディ作曲 一人寂しく眠ろう
オペラ「ドン・カルロ」より
- モーツァルト作曲 もう飛ぶまいぞ、この蝶々
オペラ「フィガロの結婚」より
- ブッチーニ作曲 ある晴れた日に
オペラ「蝶々夫人」より 他
- ※曲目は変更となる場合があります

(写真)思い出のウーン国立歌劇場

日時：2010年1月14日(木) 13:30開場 14:00開演

会場：町田市民ホール(大ホール)

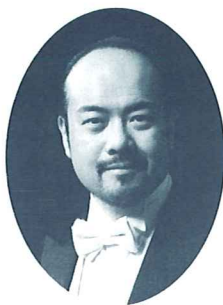
S席：4,000円、A席：3,000円 (全席指定、いずれも税込み)

「チケット取り扱い」 町田市民ホール TEL **042-728-4300** (8:30~17:00 第1・第3月曜定休)
チケットセンター TEL **03-6672-6600** (月~金 10:00~18:00)

協力：財団法人 町田市文化・国際交流財団 グローバル カルチャーイベント株式会社
主催：東敦子没10周年記念ガラコンサート実行委員会

出演者プロフィール

佐野 成宏 テノール Shigehiro Sano



東京芸術大学声楽科卒業後、アリゴ・ボイト音楽院(伊)に留学。同年の関西日伊コンクール第1位・ミラノ大賞受賞をはじめ、欧米各国の国際コンクールにて上位入賞を果たす。以後、イタリアを中心にヨーロッパ各地で多くのコンサート、オペラに出演。

主なレパートリーは、ヴェルディ『椿姫』(アルフレード)、『ドンカルロ』(ドンカルロ)、『ジョバンナ・ダルコ』(カルロ5世)、プッチーニ『ラ・ボエーム』(ロドルフォ)、『トスカ』(カヴァラドッシ)、ドニゼッティ『ランメルモールのルチア』(エドガルド)等で、いずれも高い評価を受けている。

2004年、三枝成彰作曲『ジュニアパタフライ』(タイトルロール)では、作曲家本人をして「彼なくしてはこの公演の成功は考えられない」と評価、各方面関係者からも絶賛された。2008年1月、新国立劇場オペラ『ラ・ボエーム』のロドルフォ役、5月の小澤征爾指揮、ベルリオーズ『ファウストの劫罰』ファウスト役でも好評を博した。2009年4月に開催された「天皇后両陛下ご成婚50周年ご即位20周年記念祝賀コンサート」では、男性オペラ歌手としてただ一人出演し、両陛下の御前にてオペラアリアを披露した。また、6月～7月には佐渡裕プロデュースオペラ『カルメン』にドン・ホセ役にて出演し、兵庫、東京、名古屋と多くの観客を魅了した。

“光り輝く声”をもつテノールとして、国内外から常に注目されるオペラ歌手である。

公式ホームページ <http://www.shigehirosano.com/virtuoso/>

大岩 千穂 ソプラノ Chiho Oiwa



国立音楽大学、ヴィオッティ音楽院(伊)首席卒業。第1回国際オペラコンクールin Shizuoka最高位および三浦環賞他数々の国際コンクールに入賞。25歳で『椿姫』ヴィオレッタでイタリアデビュー。

その後ハンガリー国立歌劇場で『ラ・ボエーム』ミミ、フェニーチェ歌劇場で『蝶々夫人』タイトルロールを歌い成功。02年フロリダでのレナータ・スコット演出『蝶々夫人』で米国デビュー。

新国『ラ・ボエーム』ミミ、佐渡裕指揮『蝶々夫人』、若杉弘指揮『海賊』等でいずれも絶賛を博す。08年にはびわ湖ホール『サロメ』、東京芸術劇場にて『ヴェルディのレクイエム』、浜離宮ホールにて「オペラに恋して」、テレビ朝日「題名のない音楽会」、NHK静岡生番組「たっぷり静岡」ほか、に出演する。

ヴェルディ、フォーレ、ブラームス、モーツァルト「レクイエム」、マーラー「第4番」、「第九」等をチェコ・フィル、ポリショイ劇場管、東フィル、日本フィル、新日フィル、大阪センチュリー他と共演。国際的な存在感と表現力、舞台のために授かったその声は、国内外で注目されている。二期会会員。

オフィシャル・ウェブサイト <http://opera.coolblog.jp/>

稲垣 俊也 バリトン Toshiya Inagaki



東京芸術大学卒業。文化庁オペラ研修所第7期生修了。

'90年文化庁2年派遣芸術家在外研修員として渡伊。'92年バルマ・ヴェルディ国際声楽コンクール優勝。同年シエナ音楽祭でヨーロッパデビュー。新国立劇場オープニング公演、團伊玖磨「建 TAKERU」のタイトルロールを主演。二期会創立50周年記念公演、宮本亜門演出「フィガロの結婚」のタイトルロールを主演。

またドン・ジョヴァンニ役は二期会本公演や名古屋国立能楽堂での公演、「カルメン」のエスカミリオ役は新国立劇場や愛知万博EXPOドームでの文楽様式による公演等で当たり役にしている。

宗教曲ソリストとしての出演も多く、特に3大レクイエム(モーツァルト、ヴェルディ、ドヴォルザーク)、3大オラトリオ(メサイア、天地創造、エリア)ではスペシャリストとして定評がある。

第3回グローバル東敦子賞、第22回ジローオペラ新人賞受賞。第10回CCMゴスペル大賞ベストアーティスト賞受賞。CD「めくるめく季節のなかで」(ライフミュージック)、著書「オペラな日々」(いのちのことば社)。東京基督教大学、聖学院大学、自由学園大学部各講師。二期会会員。

佐藤 正浩 ピアノ Masahiro Sato



東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。

ジュリアード音楽院ピアノ伴奏科修士課程修了と同時に同音楽院声楽科、及びジュリアード・オペラセンターの専属ピアニストとなる。1992年サンフランシスコ歌劇場のオーディションに合格。

95年には、指揮者セント・ナガノの招きにより、リヨン国立歌劇場の第一コレペティートルとなり、2つの世界初演を含む20を超えるプロダクションに参加し、多くの指揮者から絶大な信頼を得る。98年のシーズンからはパリを本拠地に、シャトレ劇場を中心としてヨーロッパ各地の歌劇場から招聘を受けコレペティートルとして活躍する一方、指揮者としての活動も開始している。2000年にはイギリスのダーティントン・フェスティバルで「ナクソス島のアドアドネ」、また新国立劇場にて「オルフェオとエウリディチェ」を指揮し日本デビューを果たす。

現在、指揮者として、またピアニストとしてヨーロッパを中心に活躍を続けている。